

分科会開催報告書

報告日	平成 27年 4月 30日	報告者	田中徳明																																										
分科会名	浮雲俳句会	開催テーマ	第89回浮雲俳句会例会																																										
開催日時	平成27年 4月 26日 午前 9:30~11:30	開催場所	金沢地区センター小会議室																																										
参加人数	“わ”の会会員 男 13名	女 4名	合計 17名 欠席者 0名																																										
<p>実施内容</p> <p>第89回例会の出句は兼題 ①隅田川 ②桜 と当季雑詠2句の計4句。 句会は、大川一馬会員による添削披露及び田中十九会員による選句の披講の後、北野主宰から、天・地・人各賞及び特選8句並びに佳作6句の発表と、それぞれの句についての論評があった。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 15%;">天賞句</td> <td style="width: 60%;">さくら道追ひかけつこのランドセル</td> <td style="width: 25%;">国 眼</td> </tr> <tr> <td>地賞句</td> <td>たはむれて落ちる気もなし春の雷</td> <td>とも女</td> </tr> <tr> <td>人賞句</td> <td>虚子の忌や大椿もて鎌倉へ</td> <td>祥 代</td> </tr> <tr> <td>特選句</td> <td>手桶にも桜蕊降る染井墓地</td> <td>一 馬</td> </tr> <tr> <td></td> <td>鑓水に昔を偲ぶ御所桜</td> <td>十 九</td> </tr> <tr> <td></td> <td>さまざまに出合ひと別れ桜咲く</td> <td>二 祥</td> </tr> <tr> <td></td> <td>あなかしこ御衣黄桜の泥牛庵</td> <td>重 九</td> </tr> <tr> <td></td> <td>あちこちの桜とことん賞でるなり</td> <td>一 祝</td> </tr> <tr> <td></td> <td>朧月波間にゆれる屋形船</td> <td>好 童</td> </tr> <tr> <td></td> <td>花林檎遠き記憶の『若菜集』</td> <td>和 女</td> </tr> <tr> <td></td> <td>一弁の庇つきいづ紫木蓮</td> <td>勇 平</td> </tr> </table> <p>主宰の指導：①兼題について 全体的に掘り下げ・研究が不足している。ありきたりに詠むのではなくその意味・背景など勉強してもらいたい。(月並み俳句を避けよ) ②季語についても 安易に選ばず例えば「蛙」など古来からのすぐれた季題にも挑戦を。常に 幅広い視野を持って研究する姿勢を大切にしてほしい。 ③俳句に理屈を持ちこまないように。</p> <p>会員選高点句</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 15%;">6点句</td> <td style="width: 60%;">花林檎遠き記憶の『若菜集』</td> <td style="width: 25%;">和 女</td> </tr> <tr> <td>6点句</td> <td>げんげ田や鳥居の先の三輪の山</td> <td>二 祥</td> </tr> <tr> <td>6点句</td> <td>那智黒に原始のひかり陽炎ひて</td> <td>一 清</td> </tr> </table> <p>次回の予定 平成27年5月24日(日)午前9時30分~12時 金沢地区センター 第90回例会 兼題 ①侍従川 ②万緑 披講 祥代</p> <p>その他</p>				天賞句	さくら道追ひかけつこのランドセル	国 眼	地賞句	たはむれて落ちる気もなし春の雷	とも女	人賞句	虚子の忌や大椿もて鎌倉へ	祥 代	特選句	手桶にも桜蕊降る染井墓地	一 馬		鑓水に昔を偲ぶ御所桜	十 九		さまざまに出合ひと別れ桜咲く	二 祥		あなかしこ御衣黄桜の泥牛庵	重 九		あちこちの桜とことん賞でるなり	一 祝		朧月波間にゆれる屋形船	好 童		花林檎遠き記憶の『若菜集』	和 女		一弁の庇つきいづ紫木蓮	勇 平	6点句	花林檎遠き記憶の『若菜集』	和 女	6点句	げんげ田や鳥居の先の三輪の山	二 祥	6点句	那智黒に原始のひかり陽炎ひて	一 清
天賞句	さくら道追ひかけつこのランドセル	国 眼																																											
地賞句	たはむれて落ちる気もなし春の雷	とも女																																											
人賞句	虚子の忌や大椿もて鎌倉へ	祥 代																																											
特選句	手桶にも桜蕊降る染井墓地	一 馬																																											
	鑓水に昔を偲ぶ御所桜	十 九																																											
	さまざまに出合ひと別れ桜咲く	二 祥																																											
	あなかしこ御衣黄桜の泥牛庵	重 九																																											
	あちこちの桜とことん賞でるなり	一 祝																																											
	朧月波間にゆれる屋形船	好 童																																											
	花林檎遠き記憶の『若菜集』	和 女																																											
	一弁の庇つきいづ紫木蓮	勇 平																																											
6点句	花林檎遠き記憶の『若菜集』	和 女																																											
6点句	げんげ田や鳥居の先の三輪の山	二 祥																																											
6点句	那智黒に原始のひかり陽炎ひて	一 清																																											